

## インターネット上のインドネシア語テキスト談話における 英語-インドネシア語コードスイッチングの形態

菅原 宜優

(言語文化学部 インドネシア語専攻)

キーワード: インドネシア語, 話し言葉, ネット言語, コードスイッチング, 接続詞

### 1. はじめに

コードスイッチングとは「会話の最中に言語 (または変種) が切り替わること」である。本稿の目的は、インターネット上のインドネシア語における英語-インドネシア語間コードスイッチングの形態を、入れ替わりが起きている語に着目して定量的に明らかにすることである。具体的な観点としては、コードスイッチングが起きやすい語、起きにくい語に特定の種類や傾向性はあるかについて、分析と考察を行った。まず2節で先行研究を概観し、3節で問題提起をした後、4節で調査について扱う。調査結果を踏まえ、5節で分析・考察を行う。最後に6節で今後の課題を述べる。なお、本稿中の例文、図表番号、先行研究や収集した例文の日本語訳については、特に断りのない限り筆者によるものである。なお、例文中にインドネシア語と英語が混在する場合、インドネシア語を斜体表記して区別する。

### 2. 先行研究

本稿では紙幅の都合上、2.1節で Cardenas-Claros and Isharyanti (2009)、2.2節で Skujins (2018) を抜粋して概観する。

#### 2.1. Cardenas-Claros and Isharyanti (2009)

インターネットチャット上のやり取りで起きる英語-インドネシア語、英語-スペイン語間のコードスイッチングを扱った研究として、Cardenas-Claros and Isharyanti (2009: 67-78) を要約する。なお、英語-スペイン語スイッチングに関する内容は割愛する。

Cardenas-Claros and Isharyanti (2009) は先行研究を踏まえ、コードスイッチングの件数や、コードスイッチングが発生する話題や語の機能など計4点の問題を調査した。使用したデータは女性調査者2名とインドネシア出身者6名、ラテンアメリカ出身者6名の計12人の被験者男性との間における個別のテキスト談話である。この談話における話題は調査者との自然な談話から生まれたもので、やり取りは電子チャットツール「MSN メッセンジャー」上にテキストとして表示されたものを使用している。このやり取りは2か月間収集され、その内インドネシア出身者とのやり取りから得られたコードスイッチングが含まれる文章は174件である。これらの文章が抜き出され、コーパス化された。本稿では、コードスイッチングが発生する話題や語の機能についての記述をまとめる。

<sup>1</sup> 山下 (2015: 89) に則る。なお本稿では、先行研究等で「コードミキシング」とされている記述は「コードスイッチング」の一形態として捉えるものとする。

言語背景にかかわらずコードスイッチングが多く発生した言語のトピックや機能として挙げられたのは「別れの挨拶」(“bye”, “see you”など 11%)、「コンピュータ関連用語」(“email”, “PC” など 10%)、「アカデミックな話題」(9%) 等である。インドネシア語圏の被験者は別れの言葉 (23%) として語が機能した場合や、スポーツ (19%)、感情・コンピュータ関連用語 (13%) 等の話題が出た際にコードを多く切り替える傾向にあった。

## 2.2. Skujins (2018)

ソーシャルメディアにおけるインドネシア語-英語コードスイッチングの研究として、Skujins (2018) を取り上げる。本稿では、Skujins (2018) による記述の内、コードスイッチングを文法的側面から観察及び記述した内容を抜粋して要約する。

Skujins (2018) の調査対象は主に3点で、①18歳以上の英語・インドネシア語双方の運用ができるインドネシア人が所有する、ソーシャルメディア “Facebook” のアカウント 14 件から得た投稿、②オンラインアンケートツールを通じたインドネシア語母語話者へのアンケート、③英語母語話者への E メールアンケートである。

Skujins (2018) は、文法的特徴について3つの現象を挙げた。1点目に、修飾語順の混合が挙げられる。英語は基本的に前置修飾 (*my apple*: 私のリンゴ) であるのに対して、インドネシア語は後置修飾 (*apel saya*: 私のリンゴ) である。Skujins (2018: 33) では、修飾語順について以下の例文を挙げている。

(1) ASRI AS FUK AT THIS DESA’S SUNGAI

beautiful as fuck at this village’s river

(英訳) “BEAUTIFUL AS FUK AT THIS VILLAGE’S RIVER”

(Skujins 2018: 33. 英訳は原文のもの、グロス<sup>2</sup>は筆者による)

例文 (1) では、インドネシア語彙 *sungai* (川) が、前置修飾で *this* の修飾を受けている。この他にも、インドネシア語彙 *desa* (村) に、英語の所有接尾辞 *'s* が後続している点も挙げられ、英語の文法規則がインドネシア語に適用された例として見ることができる。

2点目に、口語インドネシア語における接頭辞 *nge-* が、英語動詞に接続している例が観察された。接頭辞 *nge-* は標準インドネシア語における鼻音接頭辞 *meN-*<sup>3</sup> に相当し、特定の子音から始まる基語に接続して動詞相当語を形成することがある (例: *ngeluncur* ⇨ *meluncur*, 滑り落ちる、疾走する)。Skujins (2018: 29) では、英語動詞 *bully* に対してインドネシア語接頭辞 *nge-* が接続した *ngebully* という語が観察されたことを述べている<sup>4</sup>。

3点目に、インドネシア語における重複が、英語名詞に適用される点が挙げられる。インドネシア語では、語の重複 (*reduplication*) を通して複数性を表すことがある (*apel*: リンゴ-

<sup>2</sup> グロス中の *\_* は、グロス中の形態素境界を指す。

<sup>3</sup> Moeliono et al. (2017: 131, 156) は、接頭辞 *meN-* に「他動詞」と「自動詞」を形成する働きを認めている。

<sup>4</sup> 本稿では Skujins (2018: 29) が挙げている “*ngebully*” のような、英語にインドネシア語接辞がついて生成された語をコードスイッチングとはみなさない。詳しくは 4.1 節の脚注 9 にて述べる。

単数 vs *apel-apel* リンゴ-複数<sup>5</sup>)。Skujins (2018: 34) は、“hobby-hobby” や “gaming-gaming” 等、英語名詞にも適用された例を挙げている。

Skujins (2018) では、このような英語とインドネシア語の文法規則が混交した体系が英語-インドネシア語間のコードスイッチングで発生したことが述べられている。

### 3. 問題提起

Cardenas-Claros and Isharyanti (2009) では話題や語の機能に応じた類型がされているが、これらの類型それぞれの具体例が少なく説明に足るほど明示されていない。区別のしかたも幾分か調査者の主観が影響したものであり、どのような語を各分類に当てはめたのか、どのような基準で分類したのかについて記載されていない。

Skujins (2018) ではソーシャルメディアを題材として、インターネット上でのやり取りにおけるコードスイッチングを文法的に捉え、用例と共に記述している。しかしながら、調査期間や収集した用例の総数などが明示されておらず、定量的な分析が行われていない。加えて、Skujins (2018) では “ngebully” のような「接辞の融合でできた語」をコードスイッチングとみなしているが、「借用」との区別が明示されていない。関連する諸研究を引用しているものの、Skujins (2018) による見解や定義が明確にされないまま、“ngebully” のような「接辞の融合でできた語」をコードスイッチングに含めて論じている点で、研究対象の範疇が不明瞭になってしまっている。以上のことを考慮して、本稿ではインターネット上のインドネシア語における英語-インドネシア語間コードスイッチングの形態について、コーパスを作成して定量的に分析、考察する。

### 4. 調査

4.1 節で調査方法、4.2 節で調査結果を示す。

#### 4.1. 調査方法

コーパスの元となる収集データ対象は、匿名インターネット掲示板サイト “Reddit” 中のサブreddit<sup>6</sup> “r/indonesia”<sup>7</sup> に投稿されている “Daily Chat Thread” タグの付いたスレッド 5 件である。このサブredditでは主にインドネシア語を中心にチャットが行われており、しばしば口語体のインドネシア語が観察される。加えて、話題は特定のものに偏らない雑多なものであることから、極めてカジュアルな雑談に近いものと見てよいだろう。

対象とした 5 件のスレッドは、2021 年 4 月 5 日から 2021 年 4 月 9 日分の “Daily Chat Thread” である。この期間内の投稿に対象を絞った理由としては、今後の新規書き込みが発生しにくく、ある程度の追実験可能性を担保できると考えたためである。本稿で収集を行った 2021 年 8 月～9 月から遡って 4～5 ヶ月前の投稿であれば、第三者が同ページを対象に追実験を今後検討した際、新しい投稿や書き込みがされているリスクが低く、本稿の調査で扱

<sup>5</sup> 例示は筆者による。

<sup>6</sup> Reddit 上における、特定の話題に関する掲示板。一種のコミュニティのようなものである。

<sup>7</sup> 2021 年 9 月 15 日時点で、約 106,000 人の参加者を抱えるサブredditである。

ったデータに近いもので検証がしやすくなると考えたためである。

まず、各ページの投稿表示順を“New”(投稿が新しい順)に設定し、先頭から200例ずつコードスイッチングが起きている投稿を採集した。図1中の各投稿右側にある、括弧で区切った範囲までを1例と数えて収集を行った(図中括弧は筆者による)。計1000例をtxtファイルに書き起こし、表計算ソフト“Excel”にまとめて1つのコーパスとした。

本稿における「やり取り」は図1の最上部コメントに見るように、コメントの付いていないものも含めている<sup>8</sup>。これについて、コードスイッチングとは「会話」の中で言語が切り替わる現象を指し、ある発話に聞き手のコメント(=反応)がないものは「会話」とはみなせないとする立場が想定される。本稿では、スレッドへの書き込みは不特定多数の「読み手(=会話に置き換えれば聞き手)」による反応を期待して書いたものであると考えている。したがって本稿では、コメントがついていない書き込みでも、それは会話を意識したものであるとみなし、その中で起こるインドネシア語と英語の混在もコードスイッチングとして扱っている。

なお、本稿では、取り扱うデータ中の固有名詞(ある特定の作品名や地名、人名、製品、料理名、サービス、会社名、ユーザー名、サイト名の一部など)に英語やインドネシア語以外の言語が使われているものをコードスイッチングとはみなさない。更に、①インドネシア語に流入して綴りの変化した語(例：*diplomantik* vs *diplomatic*)や、②インドネシア語における接辞が融合したもの(例：*memback up* vs *back up*)は「借用」と見なし、コードスイッチングに含めない<sup>9</sup>。加えて、“oh”や“ah”等のフィラー、“haha”や“yay”等の統語的に独立した間投詞的表現は特定言語の語彙として定めることが難しいため、スイッチングの対象とはみなさない。

これ以外にも、英語と綴りが同じであるが、現在はインドネシア語として定着しているもの(例：*motor* vs *motor*)もコードスイッチングに含めない。これらの語の定着は、インドネ



図1: Redditの投稿例  
 (“28 May 2021 Daily Chat Thread Indonesia”より  
 2021/5/29付で筆者撮影)

<sup>8</sup> Redditでは、ある投稿に返信をしている投稿は、1段下げて表示される。例えば図1では、上から3番目の投稿が上から2番目の投稿に返信をしていることになる。一方、最上部のコメントと上から2番目の投稿は縦に見て同じ段に並んでいるため、返信ではなく別の話題として投稿をしていることになる。

<sup>9</sup> Skujins (2018: 34)では、英語にインドネシア語接辞がついて出来た語を「コードスイッチング」とみなしている。一方、田口 (2015: 110)は、「借用」の形態として、「借用」した名詞に対して、「する」に相当する語や動詞化接辞を接続させる場合を挙げている。本稿はこの記述に則り、英語にインドネシア語接辞がついて出来た語は「借用」の範疇に含まれるものとし、コードスイッチングとはみなさない。

シア語オンライン辞書 “*Kamus Besar Bahasa Indonesia Daring*<sup>10</sup>” 中に掲載されているものかどうかを指標とする。文が接続詞で始まっている場合は、前に言語がないが、接続詞の言語と、それ以降の言語が違っている場合 (混合も含む) をスイッチングとみなす。

“LOL” (laugh out loud, 大爆笑、爆笑) や “IMO” (in my opinion, 自分の意見では) などの、インターネット上でのやり取りにおける特定の語を省略した定型表現については、省略を受けている元の語から英語/インドネシア語の区別をして取り扱う。例えば、上述の 2 語はいずれも英語由来の省略表現であるため、投稿に出てきた際は英語として扱う。

#### 4.2. 調査結果

4.1 節で述べたスレッド 5 件から抽出した 1000 件のやり取りを集積した txt ファイルと、英語のみを抽出して書き起こした txt ファイルを作成した。これらの txt ファイルが本稿で用いるコーパスであり、総語数は 28867 語、この内英語は 6134 語であった。txt ファイルはコンコーダンスソフト “AntConc 3.5.8” を用いて統計を行い、上記の語数はそれぞれの txt ファイルにおける有効トークン数 (=総語数) であった。この内、英語へのスイッチングが起きている語の内上位 50 語とその出現回数を表 1 にまとめる。

表 1: コードスイッチングが起きた英語上位 50 語と出現件数

順位	語	件数	17	on	37	31	with	23
1	i	152	18	so	35	35	no	22
2	the	142	19	me	34	36	at	21
3	is	112	20	this	33	37	they	20
4	to	109	21	just	29	37	think	20
5	a	71	22	good	27	39	about	19
6	it	69	22	bro	27	39	if	19
7	not	66	24	be	26	41	btw	18
8	you	65	24	lol	26	41	chat	18
9	and	62	24	well	26	41	time	18
10	that	60	27	as	25	44	out	17
11	of	52	28	thanks	24	44	student	17
12	my	46	28	what	24	46	better	16
13	but	44	28	can	24	46	now	16
14	for	42	31	have	23	46	really	16
14	in	42	31	like	23	46	too	16
16	or	38	31	speed	23	46	upgrade	16

<sup>10</sup> インドネシア教育文化省 (Kementerian Pendidikan dan Kebudayaan) の編纂による、最大規模のインドネシア語オンライン辞書。

## 5. 分析・考察

5.1 節で英語上位語の概観、5.2 節で 2 言語間における「接続詞」起点スイッチングの分析、5.3 節で先行研究との比較を行う。

### 5.1. 英語上位語の概観

英語上位 50 語を見ると、I, it, that 等の代名詞が多く現れていることがわかる。その中でも、I を含む用例 152 件はすべて、その述部がインドネシア語で構成されず、英語動詞を述部に含んでいた。これは、例文 (2) のように、助動詞等を含んだものでも同様である。

(2) (学士号は頭の良さではなく、学業の修了証に過ぎないという投稿に対して)

yep **i can't figure out** *knp si masi ada orang2 kek gini, even di big 3 univ indo tempat gua kuliah.*

「うん、自分が学んでいるインドネシアの 3 大大学にさえも、こういう輩がまだいる理由がわからないよ」

(Reddit-20210408)

上述の点から、I が文の書き出しに用いられた場合、文の述部にインドネシア語は共起せず、英語述部と同時に現れる傾向は見られないと考えられる。したがって、下記のような例は発生しにくいと予想される。

(3) I *makan* chocolate.

「私はチョコレートを食べる」

(筆者作成)

### 5.2. 2 言語間における「接続詞」起点スイッチングの分析

調査を進める中で、but や and などの「接続詞」を起点にコードスイッチングが起きている例を複数観察した。そこで筆者は「接続詞」に焦点を当て、接続詞の前後の言語の様相に着目して観察を行った。本稿では、上位 50 語の英語接続詞 but, and, or, if, as と、それらに相当するインドネシア語「接続詞」<sup>11</sup> *tetapi (tapi, tp), dan, atau, kalau (kalo), karena* に着目した。その結果、単一言語テキストからスイッチング文に切り替わったり、スイッチング文から単一言語テキストに切り替わったりする以下のような例が見つかった。

<sup>11</sup> インドネシア語学一般において、インドネシア語をいわゆる品詞分類のパラダイムに正確に収めることは極めて難しい。降幡 (2017: 89-92) は、*rusak* という語が「壊れる」プロセス (=動詞) と「壊れた」状態 (=形容詞) の両方を表すことなどを例に挙げ、インドネシア語の品詞分類は単純に行えるものではないことを述べている。一方、Moeliono et al. (2017: 387-398) は、これら 5 語のインドネシア語を「接続詞」(“*Konjungsi*”) の章に取り上げてその機能を説明し、規範的なインドネシア語文法の枠組みとして論じている。本稿では Moeliono et al. (2017) の記述に則り、*dan, tetapi, atau, karena, kalau* を「接続詞」とみなす。

(4) (おすすめのマイクを尋ねる投稿に対して)

*takstar pcm1200 jujur ga bagus2 amet **but** will do lah dengan harga 300k.*

「Takstar PCM1200 は正直なところそんな良くはないけど、30 万ルピアの価格にしてはよく機能すると思うよ。」

(Reddit-20210405)

(5) (炊いたご飯が早く変色してしまう原因を述べた投稿に対して)

*What the heeeel.. harus cek rice cooker **kalo** dah pulang neh*

「マジか…帰ったら炊飯器をチェックしないと」

(Reddit-20210407)

例文 (4) ではそれまでインドネシア語のみで構成されたテキストが、*but* という英語接続詞を起点に英語とインドネシア語の混合文に切り替わっている。例文 (5) ではそれまで 2 言語で構成されたテキストが、*kalo (kalau)* というインドネシア語「接続詞」を起点にインドネシア語単一テキストに切り替わっている。この傾向は、接続詞の前後に現れるテキスト言語の様相から推測される。英語接続詞では 166 件の内 75 件 (45.1%)、インドネシア語「接続詞」では 1002 件の内 502 件 (50.1%) で、対象の語を境目にテキスト言語が変化している。

なお卒業論文では、英語接続詞 *if* とそれに対応するインドネシア語「接続詞」*kalau* について、*kalau* が文頭に現れるスイッチングのほうが、*if* を起点としたものよりも多く現れることを述べたが、その原因までは突き止めることができなかった。

### 5.3. 先行研究との比較

Cardenas-Claros and Isharyanti (2009: 75) では「別れの挨拶」にスイッチングが多く起こることが述べられているが、本稿の調査では “bye”, “see you” 等の「別れの挨拶」に相当する語は多く現れなかった。その一方、以下の例文 (5) や例文 (6) のように、“thanks” や “bro”<sup>12</sup> などの「挨拶・呼びかけ」として機能する語が上位 50 語に現れた。

(6) (前の投稿に対して)

*Hahahaha ngakak, siap broo thanks yaa!*

「ハハハハ (爆笑)、了解だよニキ<sup>13</sup>。ありがとね！」

(Reddit-20210409)

(7) (新型コロナウイルスの流行で、外出しジムに行かなくなったという文脈で)

*Betul bro. Gw juga gak bisa gym di rumah.*

「ホントそうだよ、ニキ。自分も家だとジムのトレーニングができないし。」

(Reddit-20210406)

<sup>12</sup> “bro” は “brother” の省略表記であり、インターネット上での会話ではしばしば呼びかけに用いられる。

<sup>13</sup> 日本語における「兄貴」の省略形から生まれた呼称。日本語におけるインターネット上でのやり取りでは、“bro” に相当する呼びかけとしてしばしば機能している。

更にこれら2語の出現位置に関して、“thanks”では全24件の内17件(70.8%)が、“bro”では全27件の内21件(77.7%)が文頭もしくは文末に現れていることから、これらの語はやり取りの開始や終了を担う機能を担っていると認めることができる。このことから、インターネット上のインドネシア語優勢テキスト談話では、会話の開始や終了を担う呼びかけ表現のスイッチングが起こる傾向にあると言えるだろう。

## 6. 今後の課題

今後の課題としては、語によってコードスイッチングの起きやすさに違いが出る原因の解明のほか、特にインドネシア語における「名詞」、「動詞」に相当する語句の出現位置や句構造、文法構造における傾向性の解析が挙げられる。コードスイッチングが発生している句はどちらの言語の文法制約(語順や修飾-被修飾構造など)を受けるのかについて更なる検討ができれば、コードスイッチングという話し言葉に起こる現象がインターネット上のテキスト談話でどのように起こるのか、より明確になっていくだろう。

### 参考文献

<日本語文献> 田口善久 (2015) 「借用」 斎藤純男・田口善久・西村義樹 (編) 『明解言語学辞典』 東京: 三省堂. / 降幡正志 (2017) 「インドネシア語を学ぶことと教えること」 東京外国語大学オープンアカデミー 『言葉とその周辺をきわめる』 活動報告書 4:83-103 / 山下里香 (2015) 「コード切り替え」 斎藤純男・田口善久・西村義樹 (編) 『明解言語学辞典』 東京: 三省堂. / <英語文献> Cardenas-Claros, M.S. and N. Isharyanti (2009) Code-switching and code-mixing in Internet chatting: between ‘yes’, ‘ya’, and ‘si’ -a case study. *The JALT CALL Journal*, 5(3), 67–78. / Skujins, Christina (2018) Indonesian/English code-switching on social media: A paper exploring how to mengekspresikan diri through the switching of bahasa. A thesis submitted in partial fulfilment of the requirements of a Master of Language Studies, Flinders University. / <インドネシア語文献> Moeliono, Anton M et al (2017) *Tata bahasa baku bahasa Indonesia Edisi ke-empat* Jakarta: Badan Pengembangan dan Pembinaan Bahasa, Kementerian Pendidikan dan Kebudayaan.

### オンライン辞書

“Kamus Besar Bahasa Indonesia Daring” (<https://kbbi.kemdikbud.go.id/>) [2021/11/01 閲覧].

### 調査資料

“r/indonesia - Reddit” (<https://www.reddit.com/r/indonesia/>) [2021/9/15 データ取得]. / “05 April 2021 Daily Chat Thread Indonesia” [2021/8/5 データ取得]. / “06 April 2021 Daily Chat Thread Indonesia” [2021/8/16 データ取得]. / “07 April 2021 Daily Chat Thread Indonesia” [2021/8/24 データ取得]. / “08 April 2021 Daily Chat Thread Indonesia” [2021/9/3 データ取得]. / “09 April 2021 Daily Chat Thread Indonesia” [2021/9/10 データ取得]. / “28 May 2021 Daily Chat Thread Indonesia” [2021/5/29 データ取得].